

動作解析システム導入

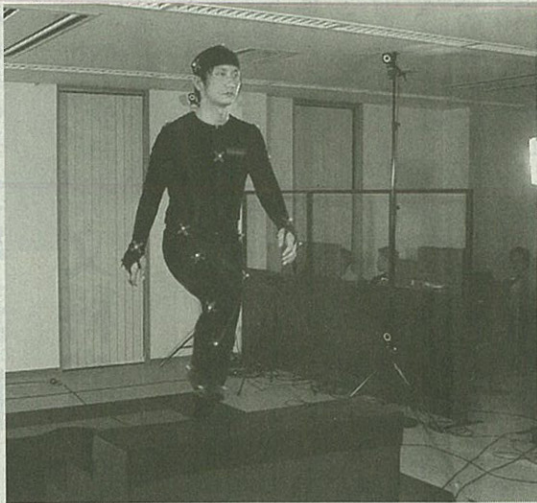
人体の動き デジタルデータ化

ダイヤ工業

R&Dセンター完成

【岡山】ダイヤ工業（岡山市南区、松尾正男社長、086・282・1245）は、岡山市内にR&Dセンター「ロコラボ」を完成した。約3000万円を投じ、旧日本の社屋を改装。モーションキャプチャーや反力計、筋電計などを組み合わせた動作解析システムを導入し人体の動きのデジタルデータ化を実現した。

R&Dセンターは主（科学的根拠）取得に「」の研究も行う。また、力の医療用サポーター活用するほか筋肉サポート、オープンラボとして製品のエビデンス「ダーウィ」で産学連携にも役立て



モーションキャプチャーなどを
使った動作計測

る。同社は以前から外部との協業に積極的で、電動義手やパワーアシストグローブなどを大学と共同開発した実績があり、さらに協業範囲を広げる。

同センターの新システム稼働で、これまで経験に頼っていた人の動きの把握が正確になり、より個人の身体にフィットした製品に仕

上げられる。人間工学などの専門家と協力し障害者アスリート向けの製品開発やパフォーマンス改善のアドバースにも利用したい考えだ。

松尾社長は「さまざまな連携も利用しながら、世界に通じる運動器のサポートシステムメーカーを目指していきたい」と話す。